



# 校長室だより

校長 山崎 聡子

## 子供たちとの関わりの中で

子供たちは、人との関わりや日々起こる出来事を通して、いろいろな思いを感じながら過ごしていることと思います。私たち大人は、子供たちのものの見方や考え方から、様々なことに気付かされるのではないのでしょうか。

先日も、登校をして来た子供が、「おもしろい雲が出ている」と話しかけてきたので、子供が見ている先を見上げてみると、竹ぼうきで引っかいたようなきれいな雲が出ていました。さらにその後、別の子供が「あそこの空がきれいだよ」と話しかけてきました。その空の様子を言葉で表現するのは難しいのですが、真っ青な空に白い雲がかかり、その下に薄い青色が真横に真っすぐに広がっている空の景色でした。子供に教えられて、その美しさに気付くことができ、カメラで写真を撮りました。ホームページに掲載していますので、ぜひ御覧いただければと思います。

いつから夜空の星の光に

気づかなくなったのかな

夏の空を見上げる

「花鳥風月」 SEKAI NO OWARI

子供たちの見ているものから、実は私たち大人が教えられることが多々あるのではないかと思います。それは、目に見える景色だけでなく、心の目で見ているものにも及びます。感性豊かな子供たちと時間を共有する中で、忘れていたものを思い出すことができたり、本質を見つめることの大切さに気付いたりします。子供たちの存在は

大きなものです。

10月4日(水)に行われた4年生の連合音楽会の素晴らしさは、すでにお伝えしていますが、昨年度本校に勤めていた教員からの話を改めて紹介させていただこうと思います。その教員は、連合音楽会に異動先の学校の子供たちと共に参加していましたが、本校の子供たちの姿を見て感動したと伝えに来てくれました。そして、うっすらと涙を浮かべながら、「子供たちが本当に一生懸命頑張って力を出している姿に触れて、自分も成長していかなければいけないと思いました」と話されていました。子供たちの姿がその教員の心を動かしたことも素晴らしいことであつたし、さらに自分自身を振り返ることができるその教員も素晴らしいなあと思いました。

本校には、子供のサポートに入る支援員がおり、日々子供たちと関わっています。支援員からの話も紹介いたします。教室の中で落ちていた水筒に気付いた子供が、その水筒を拾ってロッカーの上に置いた時に「ありがとう」とその子に伝えると、1年生の時に落ちている物は拾うことを教わったことや拾うことで友達がつまずかないことにつながることを笑顔で話してくれたとのことで、とても嬉しい出来事であつたと話していました。1年生の時に学んだことを自分の中で意味付けて生かしている子供の姿を嬉しく思いましたし、何気ない子供の動きを受け止めて子供に返していく支援員の温かさもすてきでした。

人と人とのつながりの中で、皆が豊かになること大切にしていきたいと思います。